

令和7年度 学校の教育目標

共に輝け!! 八中生

八幡浜市立八幡浜中学校

書：竹上広子先生

八幡浜中学校「校長だより」No.12

校訓

誠 実 情 熱 団 結

令和8年1月9日（金）

※ 八幡浜中学校 HP

「校長だより」に掲載。



「自律的に活動する八中生」を目指して（3学期始業式式辞より）

みなさん、あけましておめでとうございます。今年は午年です。馬は古来より力強さとスピードの象徴であり、前進や開運を意味する動物と言われています。また、午年は、変化を恐れず、新しい挑戦に踏み出すパワーを秘めた年とされています。今日から始まる八幡浜中学校初めての3学期のスタートにふさわしい年と言えます。

さて、2学期の終業式では、運動会、文化祭、清掃活動の様子から、八中生の皆さんが、様々なことに「主体的に活動できる八中生」に成長してきているということをお話しました。

そこで、この3学期には、2学期よりも更に成長した「自律的に活動する八中生」を目指してほしいと思います。自律的とは、「他からの指示を待たずに、自分で考え、判断し、能動的に行動することができる状態」を言います。

私が、このように考えるようになったのは、昨年12月に入ってからのある出来事がきっかけです。北校舎の北側に、松柏方面からの自転車通学生、江戸岡・愛宕方面からの自転車通学生、松蔭方面からの自転車通学生の自転車駐輪場が3か所あります。今年度の4月からずっと、矢野先生や西野さんが、止める場所を指示していただいたり、自転車を整頓していただいたり、施錠を確認していただいたりしていましたが、駐輪の状態は良いとは言えませんでした。12月のある日も、自転車がきちんと整頓されておらず、一列で並べられていないばかりか、無理やり自転車の間に押し込んだり、通路にはみ出して止めたりしました。このような状態の駐輪場に、後から来た自転車通学生が停めようとしても、停めるところがありません。こんなとき、うか？嫌な気持ちになったり、悲しい気持ちになったりすると思う人がいなくなるようにするには、どうすればよいか考えました。



どのような気持ちになるでしょう。そこで、そんな気持ちになる

この翌朝から、それぞれの駐輪場の両端から、順々に詰めて停めていってもらうように、みんなに声を掛けました。これを5日間、続けました。4日目ごろになると、何も言わなくても、駐輪場の両端から、順々に詰めて停めていく人が多くなりました。「さすが八中生だ！！」と思って安心しました。



翌週の月曜日、朝の会が終わったころ、駐輪場の様子を見に行きました。ところが、狭いところに無理やり停めていたり、通路にはみ出でていたりしている自転車があり、大変残念な気持ちになりました。先週はできていたのに、今週はできていない・・・何とも悲しい気持ちになりました。どうして、このようなことになったのでしょうか。先生がそこにいなかつたから、できなかつたのでしょうか。呼び掛けられなかつたので、できなかつたのでしょうか。

先生が毎日、声を掛ける、毎日、忘れないように放送で呼び掛ける、このように八中生に声を掛けるのも一つの方法です。しかし、これらの対策では、「先生の指示で～する」「注意されるから～する」というふうに、誰かに頼った行動になり、自律的に活動するとは言えません。

では、どうすればよいのでしょうか。私は、「後から停める八中生が気持ちよく自転車を停められるように、自分の自転車を整頓して停める」「後から停める八中生が喜んでくれるように、自分の自転車を整頓して停める」というように、周りの八中生が気持ち良くなったり、喜んだりするような行動をすることだと思います。自分の行動が、「八中生を悲しませていないか」「八中生が気持ちよく過ごすためになっているか」を常に考えることだと思います。

自分が行動する前に、自分の行動によって八中生が嫌な気持ちになったり、悲しい気持ちになったりすることはないか、常に考えてください。そして、その行動が「八中生が気持ちよく過ごすためになっているか」どうかを判断してください。そして、「八中生が気持ちよく過ごすためになつていれば」、行動してください。登下校、朝の挨拶、教室での過ごし方、授業の時の態度、友達との接し方などなど、あらゆる場面で、八中生全員が、このことを頭において行動すると、「居心地の良い学級、居心地の良い学校」になってくると思います。このように自分で考え、判断し、行動できれば、「自律的に活動できる八中生」になります。

八幡浜中学校の初めての3学期、この3学期が、八中生にとって、実り多い、更に大きく成長する学期になることを期待しています。

（文責 河野 靖）